

科目概要 &カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー(DP)とのかかわりについて(下記参照)																		
大区分	概要	中区分	概要	科目名	英文名称	科目概要 150字～160字以内	到達目標 (～できるで記載) 100字～120字以内	単位	講義	形態	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7	
基幹科目	研究を行うための基盤を形成する科目	共通基幹科目	文社系での研究方法を学ぶ。	社会学研究法Ⅰ (スタンダード)	Methods of Sociological Studies, Standard	人文社会系領域での研究を行うための基本を習得することを目的とし、研究に関わる概念や研究の過程・方法について学ぶ。具体的には、研究課題の設定、先行研究の探査、研究方法の選択、データの収集・分析、報告・論文執筆、研究倫理など、研究の一連の流れや留意点を理解し、自身の研究の展開に応用していく能力を修得する。授業は講義と演習形式を併用する。前期課程院生を対象とするが、研究の基本から学び直したい後期院生にも推奨する。	自らの研究課題を設定し、その意義について報告・討議することができる。研究課題に関する先行研究を文献探査し、適切にレビューすることができる。研究倫理を遵守するとはどのようなことか述べることができる。	2単位	2.0	講義	○	◎				○		
				社会学研究法Ⅱ (アドバンス)	Methods of Sociological Studies, Advanced	人文社会系における研究を行うための基本を踏まえて、受講生が各自の研究テーマを絞り込み、具体的に現実的な研究計画を策定できることを目的とする。学術誌に掲載された論文や公開されている博士論文をできるだけ多く精読し、クラスで討議することを通して論文作成の具体的なイメージをつかんだ上で、自ら研究計画をたてて発表し、それについて質疑応答・議論を行って研究計画を精緻化していく。後期課程院生を対象とするが、既に研究の基本を習得し、研究の経験がある場合には、前期課程院生でも履修可能である。	研究の目的と意義を明確に述べることができる。具体的で実行可能な研究計画をたてることができる。研究倫理を遵守して自分自身の研究を行うためには何が必要か述べることができる。	2単位	2.0	講義	○	◎		○		○	○	
		研究領域基幹科目	各研究領域における研究入門科目。各領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ。	【現代社会研究領域】 現代社会研究Ⅰ	Contemporary SocietyⅠ	現代社会研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ科目である。複数の教員が1クラスを担当し、受講者の発表をベースに、適宜、読むべき基本文献や研究手法について助言・指導する。グローバル化に伴う現代社会の構造変動、高齢化社会の到来と福祉社会ビジョン、女性の社会進出、「脱生産」価値の出現など、産業社会の進展に伴って出現する現代社会の諸相を、社会構造上の背景との関係性において把握する方法論の考察が本科目の課題である。社会・経済・政治などの分析視点に立つ先行研究を手がかりとしながら、講義を進める。	現代の社会、経済、政治的領域における具体的課題について、社会科学的な枠組みに基づく分析を行うことができる。また、それらの社会事象を、背景にある社会・経済の構造や変動との脈絡において、理論と概念を用いて、説明することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
				【現代社会研究領域】 現代社会研究Ⅱ	Contemporary SocietyⅡ	現代社会研究Ⅰに引き続き、現代社会研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ。Ⅰでの学びを踏まえ、Ⅱでは受講者の研究構想についての発表と議論を通して研究の目的および方法について具体化することをめざす。講義終盤には研究テーマ構想発表会を開催する。	論文執筆にむけて、自己の研究テーマに関する具体的な分析方法と論証方法を構想することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
				【人間福祉研究領域】 社会福祉研究Ⅰ	Social WelfareⅠ	人間福祉研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ科目である。教員2名程度が1クラスを担当し、受講する院生の発表をベースに、適宜、読むべき基本文献や研究手法について助言・指導する。人間発達や社会福祉研究に関わっては、それらの領域の独自の課題を個別に探求していくと同時に、人間の社会的諸活動における相互作用の役割に目を向けることも重要である。またこの科目では、ソーシャルワークの方法に関する理論的研究など、広く人間発達と社会福祉研究に係る諸問題及び社会的諸活動における人間－社会の相互作用のダイナミズムもとりあげていく。	人間発達や社会福祉に関する諸問題について、社会科学に関する基礎的、応用的知識をベースに課題を設定できる。そうした課題の解明と解決に向けて主体的に考察することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
				【人間福祉研究領域】 社会福祉研究Ⅱ	Social WelfareⅡ	社会福祉研究Ⅰに引き続き、人間福祉研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ。Ⅰでの学びを踏まえ、Ⅱでは受講者の研究構想を進展させ、その発表と議論を中心に演習を行う。講義終盤には研究テーマ構想発表会を開催する。	論文執筆にむけて、自己の研究テーマに関する具体的な分析方法と論証方法を構想することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
				【スポーツ社会研究領域】 スポーツ社会学研究Ⅰ	Sociology of SportⅠ	スポーツ社会研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ科目である。教員2名程度が1クラスを担当し、受講する院生の発表をベースに、適宜、読むべき基本文献や研究手法について助言・指導する。スポーツ社会学がどのような理論と方法をもってスポーツを分析しているかを理解することを目的としている。特に理論を中心に議論を深め、単にそれらを知るばかりではなく、それらを活用できるようにいくつかの事例分析も併せて行い、理論を実践応用・運用できる力が身につくようにする。具体的には、現在スポーツ社会学における代表的な諸理論を学ぶと共に、それらを使いどのように現実社会のスポーツに関わる事象を分析しているのか、併せて示すこととする。	現在のスポーツ社会学がどのような理論と方法をもってスポーツの分析を行っているか理解することができる。現代スポーツの分析にそれらを応用することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
				【スポーツ社会研究領域】 スポーツ社会学研究Ⅱ	Sociology of SportⅡ	スポーツ社会研究Ⅰに引き続き、スポーツ社会研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ。Ⅰでの学びを踏まえ、Ⅱでは受講者の研究構想を進展させ、その発表と議論を中心に演習を行う。講義終盤には研究テーマ構想発表会を開催する。	論文執筆にむけて、自己の研究テーマに関する具体的な分析方法と論証方法を構想することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
				【メディア社会研究領域】 メディア・コミュニケーション研究Ⅰ	Media and CommunicationⅠ	メディア社会研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ科目である。教員2名程度が1クラスを担当し、受講する院生の発表をベースに、適宜、読むべき基本文献や研究手法について助言・指導する。近代化のなかでマス・メディアとパーソナル・メディアは大きな技術的發展と普及を遂げ、社会の形を大きく変えるまでに至っている。本講義では、現代社会の重要な構成要素となっているメディアとコミュニケーションについて、社会学その他の学問的な枠組みを用いた研究を理解し、メディア学の専門的な知見を身に付けることを目的とする。	社会学とその周辺領域の理論・実証研究の制を通じて、メディアとコミュニケーションについて学術的に思考することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
				【メディア社会研究領域】 メディア・コミュニケーション研究Ⅱ	Media and CommunicationⅡ	メディア社会研究Ⅰに引き続き、メディア社会研究領域の研究内容について概観し、基礎的な研究手法を演習形式で学ぶ。Ⅰでの学びを踏まえ、Ⅱでは受講者の研究構想を進展させ、その発表と議論を中心に演習を行う。講義終盤には研究テーマ構想発表会を開催する。	論文執筆にむけて、自己の研究テーマに関する具体的な分析方法と論証方法を構想することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○				
		研究領域共通基幹科目	研究を行うための基礎理論や研究方法について学ぶ。	社会学理論	Sociological Theory	社会学の総合性よりもむしろ歴史性、系統性、発展性を重視し、そのうえで社会学的研究にとって不可欠な基礎カテゴリーを扱う。またそれらを応用した現代社会分析も取り上げながら講義を進め、社会学理論の多元的構成を理解して、社会学的研究を理論的に推進する能力の開発をめざす。ヨーロッパ系、英米系などの社会学から重点を定めながら論究する。	社会学理論の基本的な方法、基本展開を、隣接諸領域と関連させながら理解できる。批判理論における内容を理解し、現代社会の病理を批判する意義を学ぶ。テキストを読み要約し討議し、ペーパーにまとめる能力を身につけることができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○	○			
				社会学史研究	History of Sociology	社会学という学問が格闘してきた主要な問題と、それらの問題を分析するためにどのような観点や方法が形成されたかを理解し、自らの研究を反省的にとらえ返す契機とする。	社会学の形成発展の歴史の概略を理解し、社会学が取り組んだ主要な問題、理論、方法についての基本認識を得て、社会学の学問的性格を理解する。その上で、自らの研究について社会学研究の歴史に照らして反省的にとらえ返すことができるようにする。	2単位	2.0	講義	○		◎	○	◎			
				社会調査研究Ⅰ	Social ResearchⅠ	社会学、社会科学の研究を進めるには質問紙調査、インタビュー調査など多様な実証的アプローチがある。この研究手法には、研究対象に関する理論的問題をいかに調査設計に結びつけるか、調査研究方法を理解して適切な手法を選択するか、現代の社会的文脈においてデータをいかに分析・解釈するか、などの問題群がある。本科目ではいくつかの研究領域の代表的調査研究などを素材にしなが、これらの問題群について検討する。	各自の研究分野・テーマの理論や仮説に根ざした適切な調査研究方法を選択できる。専門的知識と技能に基づき適切にデータの分析や解釈ができる。調査倫理に基づいた社会調査の企画・設計、調査の運営管理ならびに研究成果の発表・表現ができる。	2単位	2.0	講義		○			◎	○		
				社会調査研究Ⅱ	Social ResearchⅡ	新聞・雑誌記事、資料文書、映像、放送、音楽などの質的データの分析法(内容分析等)を習得するとともに、さまざまな質的調査法(聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析など)に関する基本的理解を踏まえながら、そのあるものについての実践的な能力を習得する科目。	質的調査において、調査対象者の人権を最大限に尊重し、プライバシーを保護し、被りうる不利益への配慮を行なうことができる。また調査結果を学術研究としての検証に耐える形で記録および報告できる。	2単位	2.0	講義		◎		○	◎	○		
				多変量解析法Ⅰ	Multivariate AnalysisⅠ	社会調査データ分析に必要な多変量解析法の理論的基礎について講義をする。重回帰分析、主成分分析、因子分析、対数線型モデルなどの基本的な線型モデルを取り上げる。講義の理解を促すためにサンプルデータを使った実習も取り入れる。	基本的な多変量解析法の基礎理論を理解できる。データ分析の目的に応じた多変量解析法を選択できる。	2単位	2.0	講義	○	○	○	◎	◎	○		
				多変量解析法Ⅱ	Multivariate AnalysisⅡ	社会調査データを用いた多変量解析の実習を行う。代表的な統計分析パッケージの使用方法、出力結果の解釈の仕方について、社会調査データの分析を進める中で習得する。	多変量解析法を用いて社会調査データを分析することができる。社会調査データの分析に統計分析パッケージを活用することができる。	2単位	2.0	講義	○	○	○	◎	◎	○		
				社会統計研究	Social Statistics Study	現代社会において、行政施策の遂行や社会問題解決のための政策提示に、各種統計情報を利用することが不可欠となっている。この科目では、経済現象・社会現象を正確に把握し統計を課題解決に活用する能力を習得することを目的に、官庁統計を中心とする公開された統計データの入手方法、利用可能性、分析方法について、講義と実習を行う。	(1)官庁統計を中心とする公開統計情報を入手し利用することができる。(2)統計情報の調査方法や調査内容を正確に理解し、利用可能性を判断することができる。(3)基礎的な統計分析手法を社会科学研究に活用することができる。	2単位	2.0	講義	○		○		◎	○		
					【現代社会研究領域】 政治・経済研究	Political Economy	現代社会が抱える社会保障、産業育成、環境対策、あるいは持続的發展などの論点を巡って、特にそれらの史的経緯や未来を考える上で、経済的状況や政治的条件は不可分である。それゆえ、本講義では、経済学ないし政治学のアプローチを用い、現代社会を複眼的・重層的に捉えて理解する必要性や、学際的に学ぶことの重要性を具体的に理解していく。	(1)講義で取り上げる、経済学または政治学の方法論やアプローチの意義を客観的に説明出来ること。(2)各自の研究主題の経済的または政治的側面について、経済学や政治学のロジックや専門用語も用いつつ、具体的に説明出来ること。	2単位	2.0	講義	◎		○	○			

大区分	概要	中区分	概要	科目名	英文名称	科目概要 150字～160字以内	到達目標 (～できるで記載) 100字～120字以内	単位	講義	形態	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7
応用科目	専門的な知識・技能を獲得し発展させるための科目	現代社会研究領域の専門科目	現代社会研究領域は「現代社会を社会学および社会諸科学を基礎に研究する」研究領域。この研究領域では、現代社会の全体的・個別領域的な構造と動態を、歴史と現状を踏まえて研究を行う。社会学を中心としながら、経済学・歴史学・政治学・政策学・科学技術論・人間・文化・身体・表現・芸術・教育等の分野に依拠しつつ、それらの理論的究明とあわせて、応用的、具体的、実証的な運用と展開を図る	【現代社会研究領域】産業社会研究	Industrial Society	個別研究領域としての産業・労働社会学の理論と方法、学としての形成、発展、現状、課題などについて研究する。具体的な主題としては日本企業論、日本型生産システム論、労働過程論、労使関係論、個別職業研究、キャリア形成論など。	日本の企業、労働者の在りようの歴史的な変容、今日的な課題、諸外国との相違等を、先行研究、各種質的、量的資料を適切に利用して分析、提示、討論することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○			
				【現代社会研究領域】社会文化研究	Socio-Cultural Studies	現代社会学における文化研究は、グローバリゼーション「モダンとポストモダン」等国民社会の枠組みを超えて展開しつつある。本科目は、社会学における現代文化研究・文化理論研究のサーベいをベースに、人文諸科学の研究成果も学際的な視点からフォローし、「文化と社会」に関わる諸問題の理論的・実証的研究を課題とする。	社会文化論の基本的な方法・基本学説を、隣接諸領域と関連させながら説明できる。批判理論における内容と、現代社会の病理を批判する意義を、説明できる。テキストを読み要約し、プレゼンテーション・討議し、ペーパーにまとめることができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○		○	
				【現代社会研究領域】人間文化研究	Humanity and Culture	グローバル化の潮流の中にある現代社会においては、多文化主義的政策が進む一方で、民族、宗教、国家の差異を指標とした対立が顕著になっている。この科目では、民族紛争や宗教対立など、現代の人間と文化をめぐる諸問題について、社会学の観点を基礎としつつ幅広い文脈からとらえ、文化が人間や社会に対して持つ意味を考察する。	現代社会における民族、宗教、国籍など文化に関する国内外の諸問題について、その背景や原理を説明することができる。そのうえで、それらの諸問題の解明に取り組むために必要な関連する学問領域についての知識を身につける。	2単位	2.0	講義	◎	○	○	○			
				【現代社会研究領域】社会病理研究	Social Pathology	非行、犯罪、いじめ、自殺、虐待、暴力、アルコールや薬物、ギャンブル等の依存症、社会的差別等の逸脱行動とされる現象を対象にする。社会病理学は「個人の痛み」が「社会の痛み」をうつしだしていると考え、こうした社会病理が生じる社会的背景について関係性と相互作用の視点から焦点をあて、それぞれに対応する社会問題の社会学について考察をくわえる。	逸脱と烙印の関係、社会問題の社会学、臨床社会学の実践、社会問題の解決を中心とした社会病理学の基礎理論、現状理解、制度や政策のあり方の学習をとおして、現代社会における人間行動の社会学的特性について説明できる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○			
				【現代社会研究領域】環境社会研究	Environment and Society	自然環境は健康で安全な生活のため基盤であるが、産業活動によって、自然環境の物質循環はさまざまに脅かされている。オゾン層保護、気候保全・気候変動対策、安全な大気・水環境の確保、化学物質の環境リスク低減、生物多様性の保全、持続可能な発展にむけた対策が求められている。本科目は、環境保全を要する問題について、環境政策、エネルギー経済、科学技術論、環境社会学の手法を取り入れて、持続可能な社会形成につながる産業・技術と社会システムを考究する。	(1)日本の環境問題の現状と政策について、基本的知識を獲得することができる。(2)選択的に学習する特定の環境問題・環境対策について、統計データの分析手法、現行の法規と政策に関して、専門的知識を獲得することができる。(3)選択的に学習する特定の環境問題・環境政策について、国際比較により、諸外国の統計データ、環境政策について、専門的知識とデータ分析の技能を獲得することができる。(4)英語による図表作成、発表スライドの作成により、プレゼンテーション能力を獲得することができる。	2単位	2.0	講義	○		◎	○	◎		
				【現代社会研究領域】地域社会研究	Regional and Community Studies	地域は特定の資源・環境を基盤として産業構造と生活様式が成り立ち、それらを治める自治・行政機構が存在する立体的な構造をもっている。地域社会研究では、現代社会の動向に対する総体的観察力の陶冶と先行研究における問題関心・対象・方法の歴史的展開過程の把握を前提として、地域社会の構造変動および地域政策について考察していく。	地域社会をめぐる諸課題について、社会科学的な思考を通じて探究するとともに、社会学における地域研究として、農村社会学・都市社会学・地域社会学それぞれの学問的立場・方法を把握した上で、地域社会学の発展史および今日的な潮流を説明することができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○		○	
				【現代社会研究領域】教育社会研究	Study of Educational Sociology	本講義では、学校教育に視野を限定せずに、教育現象を社会学的に解明していくことを目指す。その際に、社会的規模で展開されている世代の再生産や、学校から労働への移行問題、国家の教育政策、保護者の教育意識、学び手の発達課題などを視野に収める。現代的教育現象を、基本的な問題群の中に位置付け直して、社会諸科学の成果、とりわけ教育社会学の蓄積を参考にしながら、多角的に探求していく。	人間の再生産に関わる社会現象について、基礎的なカテゴリーとの関わりで把握できる。現代的教育政策について歴史的動向を踏まえて説明できる。教育に関わる基本的文献の読解を円滑に行うことができる。現代の子どもの発達課題について認識できる。	2単位	2.0	講義	○			◎			
				【現代社会研究領域】現代社会特殊研究	Applied Study of Contemporary Society	多様な社会諸現象の中から個別のテーマを取り上げ、社会学もしくは他の関連社会諸科学の方法論に基づいて検討していく。本講義で採り上げるテーマについては、社会学研究科における現代社会領域で研究することのできる分野から設定されることになる。本科目は必要に応じて開講することとする。	本科目で採り上げられた特定の社会現象について、その現象についての理論や背景について説明することができる。自身の研究関心やテーマと、本科目で取り上げられた特定の社会現象との関係について説明することができる。	2単位	2.0	講義	○		○	◎	○		
		人間福祉研究領域の専門科目	人間福祉研究領域は「人の発達と福祉を学際的に研究する」研究領域。乳幼児から児童・青年・成人・高齢者に至るまでの様々なライフステージにある人々が、いきいきと発達し生活するための条件や阻害要因、そこに関わる家族、福祉施設や学校などの組織、コミュニティ、社会制度・政策などについての研究を行う。心理学や社会福祉学、教育学などの様々な理論や臨床実践を踏まえて学際的・多面的な研究を展開する。	【人間福祉研究領域】福祉社会研究	Social Welfare and Society	少子高齢化、経済のグローバル化といったマクロトレンドのなかにあって、若年層の雇用の不安定化や子どもの貧困などの「新しいリスク」が生じ、福祉社会を支える制度・政策はその対応を迫られている。本研究では、福祉社会における社会問題の変容とそこでの社会保障・福祉制度が対応すべき政策課題について分析を深める。	①福祉社会の生活・労働問題に関して政策上の課題を提示できる。 ②多様な研究方法にもとづいて政策課題の構図を明らかにすることができる。 ③政策課題を学際的に関連付けて捉え、先行研究を新たな視点でみることができる。 ④分析結果を図表などを用いて理論的に述べることができる。	2単位	2.0	講義	○			○	◎	○	
				【人間福祉研究領域】地域福祉研究	Social Welfare and Community	地域福祉およびそのネットワークを考える場合、人間の生活を社会的、文化的に再生産していくためには社会福祉の諸資源を有効に結びつけること、そして医療、教育、健康などの関連分野とのひろがりのなかでそれらを行うことが重要である。人々の自発性を尊重したボランタリズムの発展の条件と可能性、福祉活動を行うNPO(非営利組織、社会セクター)の役割の明確化という広がりのなかで地域福祉の課題を探求していく。	本科目を受講することで福祉や人間の生活における「地域」の重要性を理解する捉えることができる。併せて地域の様々な資源およびアクターを結びつける方策を理論的、実践的に捉えることができる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○			
				【人間福祉研究領域】人間福祉研究	Human Welfare	グローバリゼーションに象徴される近年の著しい社会変動は、人間の一生にさまざまな影響を及ぼしている。それは先行きの不透明性の強まりとして認識されている。本講では、幼少期から高齢期まで、人間と社会の関わりの変化を捉え、そこから今日の福祉課題を明らかにする。自己実現と人間発達はキーワードに据えて、それらを現実社会のなかでどう達成していくか。そのための理論と方法について学ぶ。	一人のクライアントが抱える問題を、個別性(特殊性)と共通性(普遍性)の両面において理解できる。今日的な福祉の諸問題に関して、関連領域の知見を動員して、幅広い観点から分析できる。	2単位	2.0	講義	◎		○	○			
				【人間福祉研究領域】ソーシャルワーク研究	Social Work	ソーシャルワークは、人々の福利の増進をめざして、問題解決を支援したり、エンパワメントや解放を促進したり、環境改善にむけて社会に働きかけたりする。本講義では、現代社会の様々な課題に対応するための方法として、理論・モデルに基づいたソーシャルワーク実践について学ぶ。ミクロレベルからマクロレベルまで事例をもちいて、その実践の方法とプロセスを理解し、そこに関わる諸課題を探求する。また、福祉の現場での研究のあり方・留意点についても学ぶ。	①ソーシャルワークの価値・倫理が実践とどのように結びついているか具体例を挙げて説明できる。 ②ソーシャルワーク実践の方法とプロセスを説明できる。 ③ソーシャルワーク実践に応じた研究方法を選ぶことができる。	2単位	2.0	講義	○		◎		○		
				【人間福祉研究領域】発達臨床研究	Clinical Studies in Human Development	発達臨床研究では、人の生涯にわたる生理・心理・社会的諸側面からなる生活文脈の中で起こりうる、様々な兆候・問題・障害を包含した時間的・発生的な過程から人間への理解を深めるとともに、そのことをふまえた具体的で多様な発達支援のあり方について検討を行う。	生理・心理・社会的諸側面にわたる人間発達の全体像ならびに様々な障害や不適応に関する基本的な知見を理解することができる。また、発達支援の方法論についての基本的な知見を理解できるとともに、具体的な発達支援のあり方について検討することができる。	2単位	2.0	講義	○		◎	○			
				【人間福祉研究領域】家族・ジェンダー研究	Family/gender Studies	本科目では、家族社会学やジェンダー研究の基本的知識を身に着ける。それが歴史的に構築されてきたものであることを理解し、社会構造や私たちの生活・意識に深く組み込まれている家族・ジェンダーのあり方を、具体的な事象から考察する。	・家族社会学・ジェンダー研究の基礎的知識を身につける。 ・家族社会学・ジェンダー研究の分析視覚を用いて、具体的事象を説明できる。	2単位	2.0	講義	○	○	○	◎			
				【人間福祉研究領域】人間福祉特殊研究	Applied Studies of Social Welfare	様々な福祉課題のなかから特定の社会現象や法制度、対策、研究等についてトピックを選んで講義する。本科目は必要に応じて開講することとする。	取り上げられた課題の状況について一定の根拠にもとづいて説明できる。その課題について分析し、自身の考察を説明できる。	2単位	2.0	講義	○	○	◎	○			
		スポーツ社会研究領域の専門科目	スポーツ社会研究領域は、「広い意味でスポーツをどのようにマネジメントするかについて理論的、実践的に研究する」研究領域。この研究領域の特色としては、スポーツの文化論的探求を基礎としながらも、他の複数の研究分野と有機的にむすびついた、人文・社会科学的知見をベースにした幅広い視点からスポーツ事象の研究を行う。	【スポーツ社会研究領域】スポーツ社会研究	Sport and Society	本講義の目的は、「社会」のコンテキストにおいて広義の意味のスポーツのありようを考察することにある。本講義の目的をよりよく解決するうえで、以下の小テーマに分節して講義をすすめていく。第1に現代社会の特徴とスポーツ、第2に近代市民社会とスポーツ、第3に国民国家とスポーツ、第4に現代社会国家とスポーツ、である。講義では講義内容の理解を深化させるために、各テーマごとに受講生と討論を行う。	①スポーツを「社会」の位相において理解できる。 ②社会に内在する課題の現代的意味を理解できる。 ③社会におけるスポーツのあるべき姿を構想できる。	2単位	2.0	講義	○		◎	○			
				【スポーツ社会研究領域】スポーツ文化研究	Sport and Culture	スポーツは、社会の様態やその変化を直截に反映していると共に、相対的に他の領域とは明確に異なった、自律した一つの「場」を持つ社会的文化である。従ってスポーツと社会との関係は、単なる「文化装置論」では解明し得ない複雑性を持っている。このためここでは、主にスポーツ社会学やスポーツ史において先行する理論的諸研究や事例研究を読み解き、いずれの研究でも前提となるスポーツと社会との関連の枠組みとそこから敷衍される概念装置についての検討を行うこととする。	現代におけるスポーツとは何かを様々な観点から学ぶことによって、受講者が、「スポーツを社会・文化とのかかわりで考える視点」を獲得することができる。	2単位	2.0	講義				◎	○		
				【スポーツ社会研究領域】スポーツマネジメント研究	Sport Management	ここではスポーツ・マネジメントの構造を、従来のように単に「スポーツ」という単独フィールドでとくのではなく、地域という戦略概念を鍵としながら、公的セクター(公教育、国家・地方行政)、市場セクター(メディア、広告産業、各種スポーツビジネス、プロスポーツ運営、レジャー産業)、ボランティアセクター(各種NPO、連盟等の運営主体など)という、社会生活の主要な3つの領域からとらえ、他の領域の諸科目と有機的関連をもたせることにより、全体として幅広い視点から福祉社会の展開に寄与するスポーツのあり方を研究する。	①スポーツが直面しているトピカルな問題をマネジメントの視点から整理できる。 ②マネジメント研究に必要な概念の選択ができる。	2単位	2.0	講義	○		◎	○			
				【スポーツ社会研究領域】スポーツ特殊研究	Applied Sport Study	本講義では、日本、さらには海外の実態をふまえて、スポーツに関連した特定のテーマを設けて考察していく。その際、本講義は本学部で開講されている海外短期研究プログラム(LAなど)を活用し、そこへの参加を通じて日米のスポーツ環境とスポーツマネジメントの比較研究を行う。なお、本講義は必要に応じて開講することとする。	①スポーツが直面している様々な課題を整理できる。 ②社会におけるスポーツのあるべき姿を構想できる。	2単位	2.0	講義	◎	○	○	○			
		メディア社会研究領域の専門科目	メディア社会研究領域は、「社会」「市民」「文化」という3つのキーワードが示すように、「メディアを中心とした社会の諸課題を研究テーマとして取り上げ、総合的・学際的な研究を行う」研究領域。この研究領域の特色としては、メディアの文化論的探求を基礎としながらも、他の複数の研究分野と有機的にむすびついた、人文・社会科学的知見をベースにした幅広い視点からメディア事象の研究を行う。	【メディア社会研究領域】メディア・リテラシー研究	Media Literacy	政治・経済・社会・文化など私たちの生活のあらゆる側面にメディアが大きな影響を及ぼしているメディア社会においては、メディアの仕組みや役割を理解し、メディア・テキストを深く読み解き、自らも発信する力、すなわち「メディア・リテラシー」が不可欠である。この科目では、メディア研究の基盤となるメディア・リテラシーのアプローチを文献から学ぶとともに、様々な視聴覚メディアを多角的に分析し、私たちとメディアとの関係性を再考する。	メディア・リテラシーの基礎的な理論を理解し、その上でメディアをクリティカルに深く読み解き、自らも発信する力を身につける。	2単位	2.0	講義	○	○	◎	○			
				【メディア社会研究領域】メディア社会研究	Media and Society	メディアは、私たちの社会を構成する重要な諸領域、たとえば政治、経済、社会関係のなかに埋め込まれ、かつこういった領域を成り立たしめている。本講義では、社会の諸領域についての学問的理解を出発点として、メディアがそこにとどのように関わっているのかについて、専門知識に裏付けされた知見を理解することを目的とする。	政治、経済、社会関係のなかに埋め込まれたメディアの役割と、社会的に構築されるメディアのあり方についての専門的知識を身に付ける。	2単位	2.0	講義	○		◎	○			

大区分	概要	中区分	概要	科目名	英文名称	科目概要 150字～160字以内	到達目標 (～できるで記載) 100字～120字以内	単位	講義	形態	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7
	メディア社会研究領域の専門科目		取り扱い、総合的な視点から理論的解明と解決の方向性を探求する」研究領域。大きく変化しつつあるメディア社会を多様な角度から捉えるため、この領域では、メディア・リテラシーをはじめとする、理論と実践に即した研究を行う。	【メディア社会研究領域】メディア文化研究	Media and Culture	メディアは時代を反映し、文化創造の一端を担っており、メディアと文化が相互に作用しあうことで我々に大きな影響をもたらしてきたのだが、今日ますますメディアと文化とは不可分になりつつある。この科目では、メディア活動における文化・表現の領域にかかわる諸問題を対象とし、その現状と問題点について研究を行う。メディア研究と文化研究との関係についての基礎的研究に基づいて、多様な文化現象について研究する。	「メディア文化」にアプローチするための理論枠組を習得し(テキストの読解)、「メディア文化」を分析する視点と言語とを獲得する(文化現象の読解)。	2単位	2.0	講義	○		◎	○			
				【メディア社会研究領域】メディア史研究	Studies on Media History	近代以降、様々なメディアが、その時々の社会状況と密に関わりながら、成立・変容してきた。と同時に、M・マクルーハンの「メディアはメッセージ」というテーゼを引くまでもなく、個々のメディアウムは独自の社会的機能を有し、社会や国家に対する人々の認識を様々な構築してきた。この授業では、近代以降のメディア編成のプロセスを見渡しながら、それを社会との関わりの中で読み解く視座について、研究・討議する。	メディアの近現代史を社会との関わりのなかで読み解く視角を獲得する。	2単位	2.0	講義	○		◎	○			
				【メディア社会研究領域】メディア特殊研究	Applied Media Studies	現代メディアに関する諸問題および現代メディアを把握する方法論に関して論じる。本講義では、今日の世界と日本の現実を踏まえて、社会学研究科で研究することのできるメディア分野について特定のテーマを設けて考察していく。本科目は必要に応じて開講することとする。	各年で設定されたメディア学のテーマについて専門的な知見を身につけること。	2単位	2.0	講義	◎	○	○	○			
	実習系科目		体験を通して実践的に学ぶ科目。実習計画をたてて一定期間実習を行い、そこで得られた成果が単位認定される。	応用社会学実習A(インターンシップ型)	Fieldwork in Applied Sociology A	大学院生のための集中実習科目。応用社会学実習Aは、短期間のインターンシップについての単位認定科目として設置する。この科目に際しては、大学院生が受講を希望するインターンシップが大学院生の研究にとって有益であると判断できる場合に限り、社会学研究科委員会が受講の可否を判断することとする。本科目の詳細については別途施行細則を設け、それをもって運用することとする。	実習に関連した特定領域についての知識をもち説明できる。特定領域において求められる技能を用いて課題に対応できる。なお、特定領域について求められる知識・技能・倫理および目標については、実習生と指導教員、実習先指導者の間で協議のうえ設定する。	2単位	2.0	講義	○	◎	○	○			
				応用社会学実習B(インディペンデント型)	Fieldwork in Applied Sociology B	大学院生のための集中実習科目。実習Bは大学院生もしくは指導教員の紹介により実習先を選定し、3ヶ月間実習に従事することで得た成果を単位認定を行う科目である。実習の履修に先立って社会学研究科委員会に所定の用紙を提出し承認を受ける必要がある。本科目の詳細については別途施行細則を設け、それをもって運用することとする。また、単位認定された「実習報告書」を基本として、別に「実習研究報告書」を執筆することにより、修士論文に代えることができる。これを選択する場合、その旨を社会学研究科委員会へ届け出て承認を受ける必要がある。「実習研究報告書」の提出期限は、修士論文のそれと同一である。	実習に関連した特定領域についての知識をもち説明できる。特定領域において求められる技能を用いて課題に対応できる。なお、特定領域について求められる知識・技能・倫理および目標については、実習生と指導教員、実習先指導者の間で協議のうえ設定する。	2単位	2.0	講義	○	◎	○	○			
				応用社会学実習C(企業・団体・機関等とのコラボレート型)	Fieldwork in Applied Sociology C	企業・団体・機関等とのコラボレート型実習科目。社会学研究科が覚書を締結している企業・機関・団体において実習を希望する場合は、この科目を登録する。基本的に応用社会実習A・Bとの重複受講はできない。ハノイ師範大学附属施設で実習を行う場合が該当する。	実習に関連した特定領域についての知識をもち説明できる。特定領域において求められる技能を用いて課題に対応できる。なお、特定領域について求められる知識・技能・倫理および目標については、実習生と指導教員、実習先指導者の間で協議のうえ設定する。	2単位	2.0	講義	○	◎	○	○			
	プロジェクト系科目		特定のテーマに焦点を定め、教員および受講生が計画をたてて協働的に取り組むことで、一定の成果を得ることをめざす。	研究プロジェクトⅠ	Research Project I	テーマ設定型プロジェクトと、応募型プロジェクトがある。テーマ設定型は、研究科において社会情勢や各領域での研究動向に基づいてテーマを設定するもので、応募型は、教員が先進的なテーマについての研究を企画し応募するものである。いずれも社会学研究科の複合的な研究分野を統合するような「横のネットワーク」を重視したプロジェクトで、複数の教員と院生が複数年度にわたって共同研究を行う。研究プロジェクトⅠと研究プロジェクトⅡは、原則、セットで履修するものとするが、担当教員が認める場合にはⅠだけの履修も認める。	到達目標は、各プロジェクトにおいて設定する。	2単位	2.0	講義	◎	○	○	○	○	○	○
				研究プロジェクトⅡ	Research Project II	研究プロジェクトⅠのテーマについて引き続き研究を行うもので、プロジェクト研究Ⅰとプロジェクト研究Ⅱは、原則、セットで履修するものとするが、担当教員が認める場合にはⅡだけの履修も認める。	到達目標は、各プロジェクトにおいて設定する。	2単位	2.0	講義	◎	○	○	○	○	○	○
				キャリア形成プロジェクト	Career Support Project	テーマ設定型プロジェクトと、応募型プロジェクトがある。テーマ設定型は、研究科において社会情勢や修了生に求められるスキルを勘案してテーマを設定するもので、応募型は、教員が企画して応募するものである。いずれも社会で研究や事業等を企画・実施・運営する際に求められるスキルを習得し、高度専門職としてのキャリア形成に資することを目的とする。実習系科目との組合せやアクティブ・ラーニングの様々な手法を用いて、科学的な知見を実践に活用できるようになることをめざす。	プロジェクトで取り組む課題についての知識をもち説明できる。プロジェクトで求められる技能を用いて課題に対応できる。なお、求められる知識および技能については各プロジェクトにおいて示す。	2単位	2.0	講義	◎	○	○			○	
				国際プロジェクトⅠ	International Research Project I	「アジアにおける比較社会研究」という総括テーマのもと、本学および海外の教員を中心とする講師陣が、英語によるリレー講義を行う。講義では比較社会分析に必要な理論的枠組み、アジア社会の現状および変容、さらに関連するテーマについて概説する。また、受講者との質疑応答や議論を通じて、比較社会研究に対する理解を深めるとともに、受講生自身のグローバル・プロジェクトにおけるテーマ設定に関する問題意識の醸成をはかる。	リレー講義の内容が理解できる。講義の内容を踏まえて自らの意見を述べることができる。	2単位	2.0	講義	◎	○	○			○	○
				国際プロジェクトⅡ	International Research Project II	国際プロジェクトⅠでの講義に出席する受講生を主な対象とする(それ以外の学生も受講可能である)。英語で行われるリレー講義の内容について理解を深めるために、講義の前に通読することが推奨される文献を中心に、理論的研究および日本・韓国等アジア社会の変容および現状、その他のテーマに関連する研究論文や資料を講読する。	リレー講義に関連する資料文献の内容について理解できる。リレー講義のテーマについての質問や意見を述べる準備ができている。	2単位	2.0	講義	○	○	○			○	○
				国際プロジェクトⅢ	International Research Project III	受講生各自の研究関心をもとに、国際的な視点に基づく調査の実施を想定し、国際プロジェクトⅣ、Ⅴに向けた調査設問のプロポーザルを策定することを目指して授業を行う。具体的には、国際比較分析に関する英語論文の講読および報告、国際調査データ分析手法の実習を行った上で、プロポーザル策定に必要な調査トピックや、調査項目の設定の仕方について学ぶ。	調査トピックの設定のプロセスと方法について説明することができる。調査項目の設定の仕方について具体的に説明できる。	2単位	2.0	講義	○	○	○	○	◎	○	○
				国際プロジェクトⅣ	International Research Project IV	国際的な視点に基づく調査を実施することを目標として授業を行い、国際プロジェクトⅤとセットになった科目である。国際プロジェクトⅣでは、参加者間で調査の企画・実施に関する議論を英語で行い、調査トピックの確定および調査票を作成する。	調査トピックについて質問項目を設定できる。そのトピックについての質問紙を作成できる。	2単位	2.0	講義	○	○	○	○	◎	○	○
				国際プロジェクトⅤ	International Research Project V	国際的な視点に基づく調査を実施することを目標として授業を行い、国際プロジェクトⅣとセットになった科目である。国際プロジェクトⅤにおいては、国際プロジェクトⅣの結果として得られたデータの分析と考察を行う。そして、それらについて英語で論文執筆および研究報告を行う。	調査のトピックについてのデータ分析ができる。分析結果およびその考察を英語で発表することができる。	2単位	2.0	講義	○	○	○	○	○	◎	○
	履修交流系科目		本学大学院の他研究科で開講する科目や、関西四大学大学院単位互換制度で認められた講義を受ける。	単位互換履修科目	Mutual Exchange Course among Four Universities I	「関西四大学大学院学生の単位互換に関する協定書」に基づき、社会学研究科の大学院生が所定の手続きを経て履修した科目について、単位認定をする科目として設置する。他大学講義の単位を認定するため、本科目の成績評価は「認定(N)」とする。	到達目標は、各科目において設定されている。	1～4単位	2.0	講義							
				応用社会学講義	Lectures in Applied Sociology	本学大学院の他研究科で開講する科目のなかで単位認定をする科目として設置する。	到達目標は、各科目において設定されている。	2単位	2.0	講義							
		外国語発信型科目	英語でアカデミックなライティングやプレゼンテーションを行うためのスキル習得をめざす。	アカデミックライティング	Academic Writing in English	This course aims to develop students' ability to use English for academic purposes, with an emphasis on writing. Students will develop their ability to write clear and effective academic reports that incorporate material from other sources.	・ students will be able to write a short academic report with a clear, well-supported thesis ・ students will be familiar with the standard conventions for referencing works by other writers ・ students will know a variety of techniques for incorporating other writers' ideas into their own writing	2単位	2.0	講義	○	○			○	○	◎
				アカデミックプレゼンテーション	Academic Presentation in English	This course aims to develop students' ability to use English for academic purposes, with an emphasis on giving oral presentations. Students will develop their ability to give effective academic presentations and to participate in discussions. Students will gain regular practice in presenting their own research to an audience in English.	・ students will be familiar with ways of organizing different types of academic presentation ・ students will be able to use PowerPoint and other visual aids to enhance their presentations ・ students will know a variety of techniques for interacting with their audience	2単位	2.0	講義	○	○			○	○	◎

大区分	概要	中区分	概要	科目名	英文名称	科目概要 150字～160字以内	到達目標 (～できるで記載) 100字～120字以内	単位	講義	形態	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP 6	DP 7
国際 関連 科目	グローバルな視点とコミュニケーション能力を増うための科目			英語リサーチスキル入門	Introduction to Research Skills in English	This introductory course aims to develop students' academic research skills in English especially for academic writing and presentation. Students will make use of library resources, online databases and the Internet, and will complete at least one research project. アカデミックライティングやアカデミックプレゼンテーションに必要な研究過程や研究方法について、主に英語で学ぶ入門科目である。実際に文献やインターネット等から得る情報を用いながら、英語リサーチプロジェクトを行う。	Students will be able to learn essential research skills for conducting a research project in English such as defining research questions, locating relevant studies, reading and note-taking skills, and referencing sources according to APA style. 英語リサーチプロジェクトを通して、リサーチ計画、文献探査や、それに必要な読解技能、APAスタイルへの習熟等、研究に必要な技能を身に付けることができる。	2単位	2.0	講義	○	○			◎	○	○
		外国語論文講読科目	現代社会の諸課題についての知識を得て理解を深めるために、洋書文献の購読を行う。	資料文献研究Ⅰ(英語)	Literature Review I (English)	社会学研究科にかかわる英語文献の講読と研究を行う。社会学・経済学などにおける古典の原典研究、資料による研究、現代の社会を読み解くために必要な諸理論に関する研究、などテキストをとおして現代社会のありようを理解することに講義の主眼をおく。履修にあたっては、あらかじめ研究対象となる資料やテキストの言語種別を確かめておくことがのぞましい。	講読する英語文献の内容を十分に理解している。文献の内容について考察し、自らの意見を述べることができる。	2単位	2.0	講義	○	○	○				◎
				資料文献研究Ⅱ(仏語)	Literature Review II (French)	社会学研究科にかかわるフランス語文献の講読と研究を行う。社会学・経済学などにおける古典の原典研究、資料による研究、現代の社会を読み解くために必要な諸理論に関する研究、などテキストをとおして現代社会のありようを理解することに講義の主眼をおく。履修にあたっては、あらかじめ研究対象となる資料やテキストの言語種別を確かめておくことがのぞましい。	講読する仏語文献の内容を十分に理解している。文献の内容について考察し、自らの意見を述べることができる。	2単位	2.0	講義	○	○	○				◎
				資料文献研究Ⅲ(独語)	Literature ReviewⅢ (German)	社会学研究科にかかわるドイツ語文献の講読と研究を行う。社会学・経済学などにおける古典の原典研究、資料による研究、現代の社会を読み解くために必要な諸理論に関する研究、などテキストをとおして現代社会のありようを理解することに講義の主眼をおく。履修にあたっては、あらかじめ研究対象となる資料やテキストの言語種別を確かめておくことがのぞましい。	講読する独語文献の内容を十分に理解している。文献の内容について考察し、自らの意見を述べることができる。	2単位	2.0	講義	○	○	○				◎
		国際社会研究科目	国内外の様々な社会システムや社会の動向、歴史、文化等について多面的に理解し、グローバル社会のあり方を考える。	国際社会研究	Comparative Study on Society	近年グローバリゼーションが進むなか、国際社会において様々な問題が生じている。政治対立や民族紛争、宗教対立など数多くの諸問題が生起しており、それら諸問題に対して理論的、実証的な分析を行う必要がある。世界の貧困問題は豊かな社会でも生まれており、それに対する支援と援助の現状を理解し、今後いかに起業的貢献、行政的貢献、市民的貢献が可能なのかを考える必要がある。援助を実践している国際的なケース・スタディを通して今後の国際社会のあり方を考察する。	情報の収集力と理解力を培いながら、構造的貧困がもたらす社会問題の現状把握力と分析力、既存の援助と支援方法をこえたより効果的な解決方法に向けた政策提言ができる力を備えることを目標とする。	2単位	2.0	講義	○	◎		○		○	○
				比較社会研究	Comparative Study on Sociology	現代社会の形成と展開を理解しながら、様々な社会システムの比較研究を英語の文献や映像資料等を用いながら行う。各国の社会システムの現状把握を踏まえて、社会における諸問題や展望を考察するとともに、今後の日本の社会システムを捉え返し、将来のあり方について考察する。	英語の文献や資料を活用しながら、日本と世界各国の社会における諸問題を比較・考察できるようになること。	2単位	2.0	講義	○	◎		○			○
				日本社会研究	Study on Japanese Society	主として留学生(日本での生活経験の少ない帰国子女も含む)を対象として、日本で研究を行うための基本スキル習得や日本語でのレポート・論文執筆を支援することを目的とする。日本社会の政治・経済・文化等の特徴や主要な社会問題をテーマとして取り上げる。日本社会に関する客観的把握を行うとともに、先行研究の分析内容や手法を学ぶことで、日本社会が抱える諸課題にアプローチする研究にはどのような視角が求められるかについて考察する。	日本社会の分析に必要な基礎的知識について説明することができる。日本で生起している社会の諸課題について、主要な先行研究の内容をふまえながら、その実態と背景について説明することができる。	2単位	2.0	講義	○	◎				○	○
研究 指導 科目	論文作成をめざして個別もしくは集団での指導が行われる科目	研究指導科目	教員から研究指導をうけながら修士論文の作成を行う。	特別演習Ⅰ	SeminarⅠ	受講生は、担当教員から研究指導を受けながら修士論文の具体的な研究テーマを検討し、研究計画について検討する。また、受講生は、修士論文作成に必要な知識・技能を習得するために履修計画についても担当教員より助言を得る。	・研究テーマと課題について説明できる。 ・研究計画案を書くことができる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	
				特別演習Ⅱ	SeminarⅡ	特別演習Ⅱに続いて、受講生は、担当教員から研究指導をうけながら修士論文の具体的な研究テーマと研究計画を設定し、それによって研究を行う。また、受講生は、修士論文作成に必要な知識・技能を習得するために履修計画についても担当教員より助言を得る。	・研究テーマと課題について先行研究を用いて説明できる。 ・具体的な研究計画をたてることができる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	
				特別演習Ⅲ	SeminarⅢ	特別演習Ⅲに続いて、受講生は、研究計画にそって研究を進める。担当教員に対し研究の進捗状況を継続的に報告し、修士論文執筆のための助言を受ける。	研究計画書にそって研究を進めることができる。研究の途中経過について報告できる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	
				特別演習Ⅳ	SeminarⅣ	特別演習Ⅲに続いて、受講生は、担当教員から指導を受けながら研究を進め、修士論文を完成させる。口頭試問の準備を行う。	修士論文を完成することができる。口頭試問に適切に答えることができる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	
		研究指導科目	教員から研究指導をうけながら研究業績を積み、博士学位請求論文を完成させる。	応用社会学特殊研究Ⅰ	Research in Applied SociologyⅠ	受講生は、これまでの研究の成果と整理を行い、課題を絞り込んで、博士論文のテーマを設定するとともに、博士論文完成までの計画をたてる。担当教員は、受講生の研究成果が学術論文として順次発表され、その研究成果が「博士」の学位論文として完成することを目標に、継続的に指導を行う。	研究テーマについて先行研究を踏まえ説明できる。後期課程修了までの計画を具体的に述べることができる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	○
				応用社会学特殊研究Ⅱ	Research in Applied SociologyⅡ	応用社会学特殊研究Ⅰに続いて、受講生は、担当教員からの研究指導を受けながら、研究計画を随時見直し、それに基づいて研究を進め、研究成果が学術論文として発表できるように準備する。	研究テーマについて、研究の目的・背景・意義を述べることができる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	○
				応用社会学特殊研究Ⅲ	Research in Applied SociologyⅢ	応用社会学特殊研究Ⅲに続いて、受講生は、担当教員からの研究指導を受けながら、研究計画を随時見直し、それに基づいて研究を進め、研究成果が学術論文として発表できるように準備する。	博士論文と強く関わりのあるテーマの学術論文を完成できる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	○
				応用社会学特殊研究Ⅳ	Research in Applied SociologyⅣ	応用社会学特殊研究Ⅲに続いて、受講生は、担当教員からの研究指導を受けながら、研究計画を随時見直し、それに基づいて研究を進め、研究成果が学術論文として発表できるように準備する。	博士論文と強く関わりのあるテーマの学術論文を完成できる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	○
				応用社会学特殊研究Ⅴ	Research in Applied SociologyⅤ	応用社会学特殊研究Ⅳに続いて、受講生は、担当教員からの研究指導を受けながら、研究計画を随時見直し、それに基づいて研究を進め、研究成果が学術論文として発表できるように準備する。	博士論文の構想について明確に述べることができる。博士論文と強く関わりのあるテーマの学術論文を完成できる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	○
				応用社会学特殊研究Ⅵ	Research in Applied SociologyⅥ	応用社会学特殊研究Ⅵに続いて、受講生は、担当教員からの研究指導を受けながら、研究計画を随時見直し、それに基づいて研究を進め、博士論文の完成をめざす。	博士論文を完成することができる。口頭試問に適切に答えることができる。	2単位	2.0	演習	○	○	○	○	○	◎	○

下記、教育目標(1～6:前期・後期課程、7:後期課程のみ)とのかかわりについては最も当てはまるものには「◎」、当てはまるものには「○」を記載。

- 現代社会の国内外の諸問題に関心を持ち、関連領域の学問的状況を踏まえ、問題の解明や対処に意欲的に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)
- 異なる領域や異なる意見・文化を持つ人を尊重し、研究倫理を遵守し、協同して研究課題に取り組みことができる。(関心・意欲・態度)
- 専門分野における高度な知識を身につけ活用することができる。(知識・理解)
- 現代社会の諸問題に関して課題を設定し、深く考察することができる。(思考・判断)
- 課題に関して、適切な科学的方法を用い、研究を遂行することができる。(思考・判断)
- 論理性、コミュニケーション能力を身につけ、自己の研究成果や見解を適切に表明することができる。(技能・表現)
- 国内外の文献のレビューを十分に行うことができる。(思考・判断)